

農業大国フランス、食品廃棄物（フードロス）を撲滅へ

株式会社グッドバンカー
リサーチチーム

2月23日からパリで、国際農業見本市（Salon International de l'Agriculture）が開催されています。毎年フランスの人口の1%が訪れるとも言われ、50回目となる今年は70万人の入場者が見込まれているそうです。

会場には22ヶ国、1,300のスタンドが集結、3,000品種以上の動物が集められ、品評会もあるので子ども達にも大人気です。見本市のディレクターの「農業は、フランス人の心に深く根をはる強力な精神的・文化的遺産」という言葉を裏づけるように、フランスの国立統計経済研究所によれば、2011年（公表された最新の数字）のフランスの農産加工品の貿易黒字は111億ユーロで、これは更に拡大しており、フランスにとって農業は経済の主要なバネであり、毎年、見本市に大統領が訪れるのも恒例になっています。この見本市は、食料自給率100%を超えるフランスの農業大国としての底力を見せるものといえるでしょう。

ところで、このフランスで食品の廃棄（フードロス）を減少させるための大キャンペーンが始まっています。Ovni紙2012年12月15日号によれば、これは2025年までにフードロスを半減させるという欧州連合（EU）の目標に沿ったものです。生産段階から最終消費者までのフランス人の年間フードロスをすべて回収できれば、一億食に匹敵するということです。大型小売店むけに、「1個売りを増やす、消費期限切れが近い食品を早めに値下げし、かつ期限前に貧困者への食品支援（フードバンク）などにまわすこと。また、小売店で売れ残った果物をジャムにする事業（フードバンク）、学校や会社の食堂でフードロスを減らす（地元産の食材使用や啓蒙活動）、生鮮食品市場で廃棄食品の分別やフードバンクへの配送のための雇用創出（国が給与を負担）をすること」などの政策が発表されました。

ひるがえって、食料自給率39%の日本のフードロスはどのようになっているのでしょうか。実は、年間1,896万tが廃棄されており、これは日本の食品輸入量の約1/3になります。食生活の60%が海外からの輸入で成り立っている日本で、これほどのフードロスが出ていることの、道義的責任と環境への負荷に対して、私たちはもっと考えるべき時ではないでしょうか。

参考資料：Ovni 2012年12月15日号

在日フランス大使館 「フランス便り 2012年2月 第7号」

<http://www.ambafrance-jp.org/article6276>

農林水産省 「食品ロスの削減・食品廃棄物の発生抑制」

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/index.html